

あいさつ

矢野 重典
(国立教育政策研究所長)

大川 秀一
(茨城県教育研修センター所長)

国立教育政策研究所長の矢野と申します。シンポジウムの開会にあたり、ひとことごあいさつ申し上げます。

教育研究公開シンポジウムは、私ども国立教育政策研究所の研究成果を、直接教育現場や一般市民に還元し、教育指導法の改善及び教員の資質向上に資するという目的により、平成2年より開催しているものです。このたびは第25回目のシンポジウムとなります。

このたびは茨城県教育研修センターのご協力をいただき、シンポジウムを開催することとなりました。現在、茨城県では全国生涯学習フェスティバルが開催されているところです。このシンポジウムは、生涯学習フェスティバルの参加事業としても位置づけられています。

このたびのシンポジウムのテーマである学校評価は、これからの教育改革における重要な施策の一つとなっています。

先週、新しい内閣が発足しました。安倍新総理は今後のあるべきこの国の形を「美しい国、日本」と表現し、それを実現する基本方針の一つとして「教育再生」

を掲げられました。その中で、公教育を再生し、基礎学力強化プログラムを推進するとともに、学校の外部評価の導入を図ることなどを打ち出されています。

国立教育政策研究所におきましては、昨年度より「教育・研究組織における評価に関する総合的研究」を開始しました。この研究は、「教育の質保証」の方法を確立するため、初等教育か

ら高等教育までを範囲とした、教育政策評価、学校評価、授業評価の3つを接続させた、教育の質保証システムの体系化を図ることを目的として実施しているものです。

本日は、この研究の一環として国立教育政策研究所がIBMビジネスコンサルティングサービス、足立区教育委員会と連携して実施しているバランススコアカードを使用した学校評価と学校経営の在り方に関する研究成果を報告いたします。併せて、文部科学省が開催している学校評価の推進に関する調査研究協力者会議の座長を務める天笠茂・千葉大学教授と、アメリカの学校改善研究に関する研究者である浜田博文・筑波大学助教授に、それぞれの学校評価に関する考えをご披露いただく予定です。また、茨城県における学校評価の現状を日立市立助川中学校の石川潤校長にご報告いただき、併せて学校評価研究についてのご要望もいただくこととしています。

本日のシンポジウムが、お集まりの皆様が関係する学校の学校評価と学校経営をより充実・発展させ、子どもたちの生きる力をはぐくむことに寄与することになることを願って、ごあいさつとさせていただきます。



教育研究公開シンポジウムは、国立教育政策研究所と各県の教育研修センターの共催で、毎年開催されております。第25回は、茨城県で10年ぶりに開催されることになり、大変喜ばしく思っております。また、当シンポジウムは、昨日から始まった「全国生涯学習フェスティバル—まなびピアいばらき2006」の参加事業にもなっています。

さて、本年3月に策定された「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」においては、学校評価の目的として、①具体的な目標を設定し、組織的・継続的に改善すること、②自己評価・外部評価の実施とその結果の説明・公表により、信頼される開かれた学校づくりを進めること、③学校評価の結果に応じて必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること、などが挙げられています。

本日のシンポジウムは、「これからの学校評価を考える」と題して、これらの目的達成のためによりよい学校評価の在り方を探るため、基調講演とパネルディスカッションが行われます。



天笠先生の基調講演では、現在座長を務められている「学校評価の推進に関する調査研究協力者会議」の審議なども踏まえて、これからの学校評価についての方向性を示唆していただけるものではないかと期待しております。また、パネルディスカッションでは、義務教育の質の保証と新しい学校評価の在り方について、企業、大学、そして学校評価を実施されている現

場の学校と、それぞれの立場からの議論が行われる予定です。

本県においても、学校、家庭、地域社会と連携、協力を深めながら、学校経営の改善、充実に努めていますが、まだまだ多くの課題も抱えています。それらの課題に対して、本日までご出席いただく各先生方から、全国的視野に立っての有益なご意見がいただけるものと思っております。

本日のシンポジウムが、明日からの教育活動に生かせることを祈念して、開会のあいさつとさせていただきます。